

山口情報芸術センター[YCAM]: 作品展示

展覧会 三上晴子「Desire of Codes | 欲望のコード」関連展示

三上晴子＋市川創太「gravicells – 重力と抵抗」改訂新バージョン

2010年1月24日(日) – 5月9日(日) 10:00 – 19:00

山口情報芸術センター[YCAM] スタジオB 入場無料

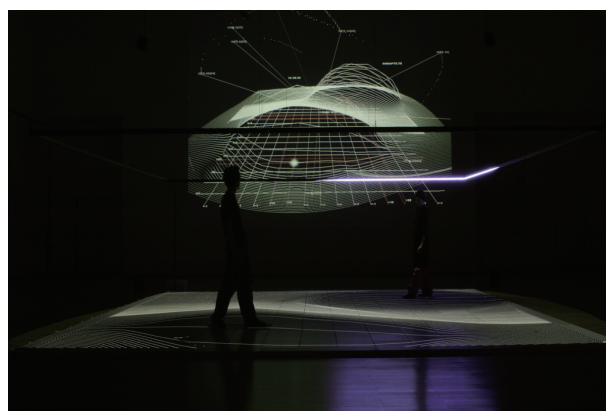
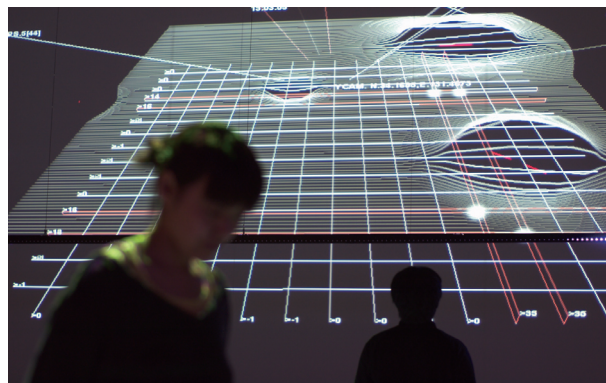
YCAMで制作・発表し、世界を巡回したインタラクティブ・アート作品を再公開
気鋭の女性アーティスト、待望の大規模個展、いよいよスタート

80年代より、「情報社会と身体」をテーマに、テクノロジーとその思想を批評的に検証しながら、時代を挑発する作品を発表し続けるアーティスト、みかみ せいこ三上晴子。2010年3月よりスタートする大規模な個展を前に、関連企画として、三上晴子＋市川創太による作品「gravicells (グラヴィセルズ) – 重力と抵抗」を、改訂新バージョンとして、再公開します。

2004年5月のYCAMでの滞在制作・初公開以来、本作は、東京、ベルリン、トリノをはじめ世界8カ国／12カ所を巡回し、メディアアートの代表的な作品のひとつとして、高い評価を得ています。

本作は、「知覚のインターフェース」をテーマに、独自に開発した特殊な装置によって、人の重力とそれに対する抵抗を、映像と音によって表現した体験型のインスタレーションです。観客の動きに反応する作品空間は、私たちの空間概念の根底となっている「重力」の存在を再認識させ、新鮮な感覚をもたらします。

世界中で好評を博した本作を、ぜひこの機会にYCAMで体験してください。



「gravicells – 重力と抵抗」(2004)

主催：財団法人山口市文化振興財団 後援：山口市、山口市教育委員会
助成：財団法人朝日新聞文化財団
協力：多摩美術大学情報芸術コース・メディア芸術研究室
企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]
キュレーター：阿部一直(YCAM) 技術協力：YCAM InterLab

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：廣田、辰村

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

YCAMが拓く「アート＆サイエンス」の世界

オリジナル作品の制作・発表・巡回による、クリエイティビティの新展開

YCAMでは、「アート＆サイエンス」をテーマに、情報技術を駆使したオリジナル作品を構想し、プロダクションチームYCAM InterLabの技術開発のもとで、制作・発表を続けています。

アート作品を通じて、これまで気づくことのなかった、身体やメディアのあり様や、メディア技術の創造性を探求することを目的とし、これまでに多くの作品を発表しています。

なかでも、「gravicells」は、重力と、それを感じる身体や知覚の存在を体感できる画期的なインタラクティブ作品といえます。子どもから大人まで楽しめる本作は、これまでに世界8カ国／12都市を巡回し、世界を魅了し続けています。

作品解説

この展示空間には、重力とそれに対する抵抗による仮定の力学場が設けられています。特殊な装置と水圧センサーによって開発された独自のセンシング機構は、観客の位置、重さ、傾き、速度や重力加速度の作用をリアルタイムに計算し、3次元の空間の歪みとして、映像と音に出力します。体験者は、空間の中を自由に歩き回することで、ダイナミックに変容する映像と音から、身体への重力の負荷と、それに対抗する反力を感じるができます。

床面に細胞のように敷き詰められた225枚のパネルには、水圧センサーが埋め込まれており、体験者の動きを連続的に検出。さらに、上空に位置するGPS衛星と体験者あるいは体験者同士の間にある重力を、連続的に算出します。これら全ての情報から割り出された力学作用による空間の歪みは、床面と周囲を覆う4面のラインの歪み、そして音の変化として、空間に表現されます。

ここでは、体験者の荷重と動きによって発生する力、上空を移動するGPS衛星による力、そして、複数の体験者とGPS衛星がお互いに引き合うアルゴリズムが発する力が相互に関係しています。つまり、体験者とGPS衛星は、作品において重力とそれに対抗する抵抗力の要因であると同時に、現象が観測されるための複数のポイントになっているのです。これは、地球の外部にある観測点をも取り込み、作品自体が地球の動き、衛星の動きといった相対的な運動の間に存在していることを示しています。

「gravicells – 重力と抵抗」巡回／発表歴

＝初公開＝

2004.5.15-6.20

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

2004.11.9 -11.21

DEAF04 (オランダ、ロッテルダム)

2005.2.4-8

Transmediale 2005 (ドイツ、ベルリン)

2005.2.24-3.1

Share Festival (イタリア、トリノ)

2005.3.10-3.20

VIA 05 (フランス、モブージュ)

2005.3.30-4.9

EXIT 05 (フランス、クレティユ)

2005.9.1-19

Ars Electronica 2005 (オーストリア、リンツ)

2005.11.23-12.25

「Possible Futures:」 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (東京)

2006.9.20-10.29

O. O. H 06 festival, Centro de Cultura Antigua Instituto (スペイン、ヒホン)

2007.2.22-3.7

Mois Multi, salle Multi et le Studio d'essai de la Cooperative Meduse (カナダ、モントリオール)

2007.4.27-6.27

el medio es la comunicación ElTanque, Espacio Cultural El Tanque (スペイン、カナリア諸島テネリフェ)

2008.4.19-2009.2.28

「Open Space 2008」 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (東京)

＝本展＝

2010.1.24-5.9

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

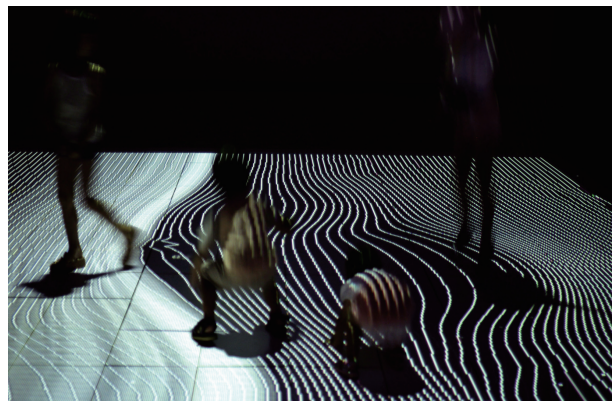


photo : Hiroki Obara

「gravicells (グラヴィセルズ) – 重力と抵抗」改訂新バージョン

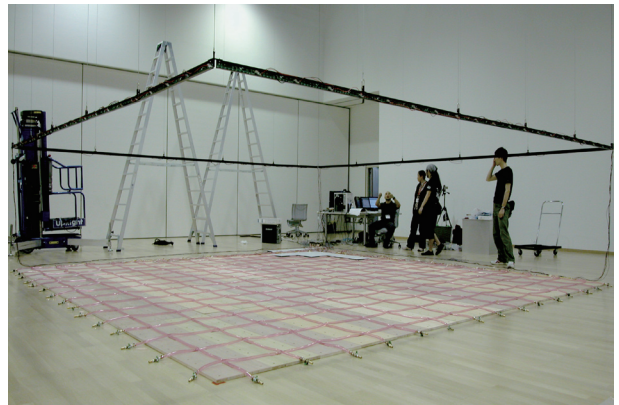
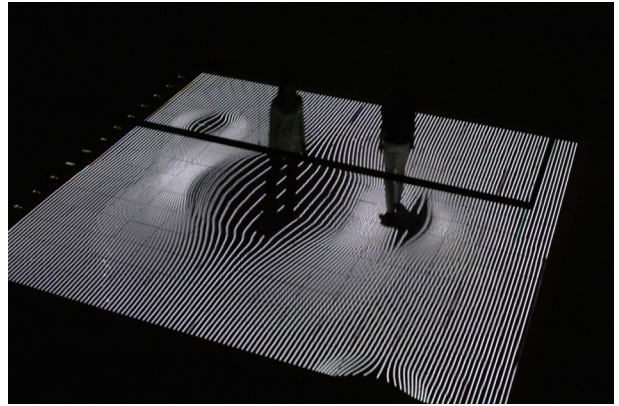
体験が、よりリアルに。技術が、より緻密に進化 —。

大幅な改訂によって、空間の変化がよりダイナミックに表現されます。

今回の展示では、アーティストとともに、YCAM InterLabが技術協力をおこない、作品の魅力をさらに進化させる改訂をおこないます。

これまでの「重力と抵抗」にくわえ、「視点と重力」というテーマにも着目。作品空間をよりダイナミックに使った新バージョンを初公開します。

映像をプロジェクションする床面と3方向の壁面を、新たに四方を連結した4面スクリーンに拡張。床面を加えた5面のリアルタイム画像の動きが連動し、観客の動きや重力の作用による空間の変化を、より立体的な3次元空間として、様々な角度から体験することができます。



2004年、YCAMでの滞在制作の様子

作家プロフィール

三上晴子 | みかみ せいこ

アーティスト

80年代から情報社会と身体をテーマとした大規模なインスタレーション作品を発表。90年代に、ニューヨーク工科大学大学院留学を経て、知覚によるインターフェースを中心としたインタラクティブアート作品を、連続的に発表。96年視線入力による作品(キヤノンアートラボ)、97年聴覚と身体内音による作品(NTT インターコミュニケーション・センター[JCC])、触覚による三次元認識の作品(ニューヨーク)、04年重力を第6の知覚と捉えた作品(山口情報芸術センター[YCAM]) などがある。主に欧米のギャラリーやミロ美術館(スペイン)、ナント美術館(フランス)などの現代美術館、またトランスメディアール(ベルリン)やDEAF(ロッテルダム)をはじめとする世界各国のメディアアートフェスティバルで発表。04年には、「三上晴子作品集」を海外から出版(Diputacion De Malaga、スペイン、02)。06年から07年まで、海外研修(ベルリン芸術大学)にてベルリン(ドイツ)滞り。現在、多摩美術大学教授。

市川創太 | いちかわ そうた

建築家

建築における空間表記方法を拡張・考察し、創作活動の基盤として自らプログラムコードも書いている。建築設計の手法・プロセス自体を開発実践しつつ、アーティストとのコラボレーションを積極的に展開。97年ドイツのメディアアーティストグループ Knowbotic Research の「10_DENCIES」に参加。04年アーティスト三上晴子と「gravicells」を発表。98年に建築設計、インスタレーションなど横断的活動を展開する建築グループ doubleNegatives Architecture [dNA] を開設。一連の「Corpora プロジェクト」は、07年山口情報芸術センター[YCAM]で「Corpora in Si(gh)te」として新作展示した後、第11回ベネチアビエンナーレ国際建築展でハンガリー代表として選出。その後ベルリン(ドイツ)、リンツ(オーストリア)で展示。10年にはメキシコでの展示を予定。08年よりアーティスト中谷芙二子とdNAのコラボレーションプロジェクト「MU: Mercurial Unfolding」を展開。

<http://doubleNegatives.jp>

お知らせ：2010年3月スタートの展覧会

三上晴子「Desire of Codes (ディザイア・オブ・コース) | 欲望のコード」

コード化されていく欲望。コード化されえない、私たちの身体とはー。

情報技術と知覚との関係を、時代の変化とともに克明に描き出し、私たちの身体や、その存在について、独自の視点から作品を発表し続けるアーティスト、三上晴子。彼女の活動を総合的に紹介する本展は、滞在制作による新作インスタレーション(YCAM委嘱作品)と、関連展示2作品を含む大規模な個展となります。

「Desire of Codes」と題された新作では、YCAMのスタジオA全面を3つの作品で構成します。観客の動きとともに変化する壁面に広がるインスタレーション(参考写真)、観客の動きを追うレーザプロジェクターが搭載された6基のロボットアーム、そして、昆虫の複眼のような巨大なスクリーンが登場します。各装置は、生物が蠢うごめくように観客の動きにあわせて一斉に動き出し、内蔵カメラが観客を監視しながら独自のデータベースを作り出します。そこに世界中で稼働する監視カメラの映像が交わり、時間や空間を断片的に組み変えながら、巨大な複眼スクリーンへと投影していきます。

本展は、プログラム言語、遺伝子暗号、個人情報など、個人の趣味趣向さえもがコード化されていく現在の社会の様相をテーマにしています。私たちが生きる環境さえも情報化される中で、「データとしての身体」「コードがもつ欲望」とは一。その変化とは一。観客自身の身体が監視と表現の対象となる本作は、私たちの存在をも問い直す意欲作となるでしょう。(2月中旬に詳細を発表)



参考写真

三上晴子「Desire of Codes」(2007)

Art and Digital Culture Berlin "transmediale2007" and Open studio at TESLA 2007

開催概要

三上晴子

「Desire of Codes / 欲望のコード」

2010年3月20日(土)～6月6日(日)

山口情報芸術センター [YCAM]

入場無料

<http://doc.ycam.jp/>

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

助成：財団法人朝日新聞文化財団

協賛：Microvision, Inc.

協力：多摩美術大学情報芸術コース・メディア芸術研究室、東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系池上高志研究室、ATAK、株式会社DGN

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

キュレーター：阿部一直(YCAM)

共同開発：YCAM InterLab

専門スタッフとともに作品を巡るギャラリーツアー

YCAMでは、専門のスタッフとともに作品を体験し、鑑賞のポイントを発見するギャラリーツアーを、週末を中心に開催しています。(期間中全22回)

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

「gravicells - 重力と抵抗」ギャラリーツアー

1月24日(日) / 30日(土) / 31日(日)

2月20日(土) / 21日(日) / 27日(土) / 28日(日)

3月13日(土) / 14日(日)

各回14:00-15:00

三上晴子「Desire of Codes / 欲望のコード」ギャラリーツアー

3月22日(月・祝) / 27日(土) / 28日(日)

4月10日(土) / 11日(日) / 17日(土) / 18日(日)

5月8日(土) / 9日(日) / 16日(日) / 29日(土) / 30日(日)

6月5日(土)

各回14:00-15:00

